

じゅしゅう

第15号
(通算355号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

今月のクイズ

- ・7月に開催される浄覚寺こども会の夏のつどい。今年で何回目を迎えるでしょうか？
- ・正解は次号にて。

弥陀の本願信ずべし

本願信ずるひとはみな
撰取不捨の利益にて
無上覚をばさとするなり
『正像末和讃』

新型コロナウイルスによる

自粛期間中に、何冊かの
本を読みました。そのうち
の一冊、石田慶和先生の遺
稿集である『「教行信証」
入門〜浄土真宗の根本と学
びの姿勢〜』を紹介させて
いただきます。

浄土真宗を学ぶには色ん
な経典や書物があります。が、
先生は宗祖親鸞聖人の著作
である『教行信証』（顕浄
土真実教行証文類）を読む
ことを薦めておられます。
その中でも冒頭に置かれた
「総序」には教行信証のエッ
センスが述べられてあり、
そこを解説する中で、浄土



真宗を学ぶ際の注意点を上
げておられます。また本願
名号、信心、称名、浄土な
どの重要な要語を宗教学の
立場から解釈しつつ、今日
的な課題も示してくださいっ
ておられます。

さて、浄土真宗は念仏一
つで救われる教えと言われ
ています。確かに間違いで
はありませんが、正しいと
も言い切れません。正確に
は「本願を信じ念仏を申さ
ば仏になる」ということを
親鸞聖人はお伝えください
ました。まずは本願を信じ
るといふこと、つまり信心

を得ることが私の往生（仏
になる）の正しき因である
ことをあきらかにされたの
です。

よく誤解をされるので
すが、浄土真宗の信心は、私
が信じる心というようには
いいません。信心が私の起
こす心であるとすると、私
自身が問題となります。信
じたり、信じなかつたり、
私の都合で変わってしまう
信心であれば、結局は救い
から漏れてしまうことにな
ります。阿弥陀さまは全
てのいのちを救いたい（お浄
土で仏の覚りを得させたい）
と願われておられます。こ
れが本願です。その願いが
お念仏となって私に届いて
います。その阿弥陀さまの
はたらきを疑いなくそのま
ま受け入れることが浄土真
宗の信心なのです。

親鸞聖人は「一念多念文
意」に「聞其名号といふは、
本願の名号をきくことたま
へるなり。きくといふは、
本願をききて疑ふところな
きを聞といふなり。またき
くといふは、信心をあらは
す御のりなり。信心歡喜乃
至一念といふは、信心は、
如来の御ちかひをききて疑
ふところのなきなり」と示
されておられます。

その上で、私が「念仏を
申す」とはどういう意味で
しょうか。お念仏は呪文の
ようなものではありません。
病気が治つたり、願い事が
叶うこともありません。儂
叶うことの無常を感じ、浄
土に生まれたいと願い、そ
のいのちの解決を間違いな
いものとしてくださる阿弥
陀さまのはたらきを、その
まま聞き受け入れた時、す

一宗の繁昌と申すは、

人のおほくあつまり、

威のおほきなること

にてはなく候ふ。

一人なりとも、

人の信をとるが、

一宗の繁昌に候ふ。

『蓮如上人聞書』

先月の答え：眞空上人。浄土宗の開祖法然上人のことです。

なわちご信心をいただいた上でのお念仏は、阿弥陀さまお任せ致します、有難うございますという仏恩報謝のお念仏となります。

現代は科学の時代です。科学は事実をあきらかにします。昔はわからなかったことも科学の進歩によってわかるようになってきました。けれど、その反面わかることしか信じないという感覚が生まれてきていると思います。「死後の世界は信じられない」というようにです。でも、科学的世観が普及した現代においても、浄土や地獄という宗教的世界観は、別な次元で

意味があるものと思います。最近では「死んだら終い。何もなくなる」と考えておられる人が多いようです。しかし、その言葉を親しい方を、特に我が子を亡くした時にも、はたして使うことができないでしょうか。激しい悲しみや苦しみが起こっているその時に、自己の存在を自分自身で問いかけてお念仏の教えによって、またお浄土があることによつて救われていくのだと思います。

もう一つ大事なことがあります。親鸞聖人はお浄土のことを、私たちが死んでから行くところだとは言わ

れておられません。浄土真宗の教えの中心は「生死出づべき道」といつて迷い、苦しみの境界から、どう乗り越え、どう生きていけばよいかということ。お浄土の一番大切な意味は、私たちの現実の生が、お浄土があることによつて支えられている。いつ何時、いのちが終わる時が来ようとも、お浄土に迎え取るといふ阿弥陀さまのはたらきによつて、確かな拠り処を得て、安心して生きていく支えとなることだと思えます。

「御文章に聞く」は
お休みさせて頂きました。

仏教語辞典



出家して仏門に入った女性のこと。男性の出家修行者を比丘といひ、女性の出家修行者を比丘尼と呼んだところからきている。「に」とも読む。

尼あま

『気になる仏教語辞典』
著・麻田弘潤 誠文堂新光社
仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

編集後記

今月も「じゅこう」をお届け致します。数日前、庫裏の軒下に蜂の巣を見つけました。調べてみると、ハチは本来益虫で、蜜を作ったり、受粉を助けたり、害虫を食べてくれるなど、人間にとっては必要な虫なのだそう。益虫や害虫とは人間にとって役に立つか立たないか。勝手にそう呼んでいるだけです。本当はどんな虫とも共存、共生できればいいの事と思いつつも、子供がいて危ないからという理由をつけて駆除してしまいました。考えさせられる出来事でした。

浄覚寺のホームページができました。七月はプレオープン、八月からの本格スタートを予定しております。よければご覧ください。
<https://www.joukakuji.org> (釋法道)

行事案内

8月

日時・七月十九日(日) 十三時～十六時
行事・浄覚寺ごとも会 夏のつどい
場所・長原 浄覚寺
内容・別紙参照(参加者は二十五名までの先着順です)
(当日のお参りはお休みをさせていただきます)

八月十五日(土) 十四時より
孟蘭盆会 法話 花岡静人先生
(例年、午前十時に厳修の初盆会の法要は、各ご自宅にておつとめさせていただきます)